

令和6年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名	豊島区立富士見台小学校
校長名	田中 良行

学校の教育目標

元気いっぱい さわやか笑顔 かがやくひとみで 未知にチャレンジ

学力に関する目指す児童像

- ・自分の思いや考えをもち、すすんで表現して伝えようとする子
- ・相手の思いや考えを大切に受け止めようとする子

授業改善推進プランの全体像

【学校教育目標】

元気いっぱい さわやか笑顔
かがやくひとみで 未知にチャレンジ

【児童の実態】

- ・他者意識が確立していない。
- ・相手に応じた挨拶や言葉遣いができていない。
- ・自分を客観的にとらえることができていない。

コミュニケーション能力

- ・伝え合う場面を設定していく【国語、外国語、特別活動】

思考力

- ・見通しをもって問題を解決していく

【算数、理科、社会、総合的な学習の時間】

校内研究

ICT活用

【めざす児童像】

- ・自分の思いや考えをもち、すすんで表現して伝えようとする子
- ・相手の思いや考えを大切に受け止めようとする子

区教研研修

OJT

実践力

- ・学習したことを、生活の中に活用していく

【家庭科、道徳】

表現力

- ・思いをもって表現できる場を設定していく
- 【音楽、図工】

技能力

- ・トライ&エラーを繰り返しながら、よりよくしようとする場を設定していく
- 【体育】

【様式2】

令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
・思いや考えを伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げられる力 ・言葉の意味や働きを理解し、相手意識をもって表現する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュ ラム	○間違いなどがあっても、素直に聞き入れることができる。 ◆相手を呼んでから、聞こえる声で話すという基本が身に付いていないため、話が伝わらない。	・言葉の最後まで、相手に伝わる声で発言することを意識させる。
低	○自分の考えをもち、すすんで表現できる。 ◆自分の考えをもつことができない児童や表現できない児童がいる。 ◆助詞の使い方が身に付いていない児童がいる。 ◆平仮名・漢字の定着に個人差がある。	・話し合いの際には事前に自分の考えを整理する時間を多く設定する。どのようにすれば話し合いが深まっていくかモデルを提示する。 ・視写などの書く経験を積ませて正しい助詞の使い方、言葉の特徴を身に付けさせる。 ・小テストを有効的に活用する。
中	○物語文では、文章から場面の様子を想像しながら考えることができる。 ◆新出漢字が定着しにくい。 ◆音読での読み間違いをする児童が多い。 ◆作文への苦手意識がある。段落のつながりを意識できない。	・チャレンジタイムを活用し、新出漢字の定着を図る。小テストを用いてアウトプットを継続的に行う。板書にも積極的に漢字を使い、日常より漢字に慣れ親しむ。 ・宿題として音読を取り入れたり、授業の中で音読の時間を取ったりし、読むことに慣れさせる。 ・学習後のまとめや感想などの短文作成から、スモールステップで作文の楽しさを味わえるようにする。作文の際には、教科書の例示をよく確認し、文章構成を意識させる。
高	○説明文の事実と意見等、既習事項を踏まえて読解できる児童が多い。 ◆言葉に対する認識が十分でなく、自信をもって上手に思いや考えを伝えられない児童が多い。 ◆筆者の考えに対する自分の意見を書くことに苦手意識がある。 ◆漢字が定着に個人差がある。	・グループ活動や対話場面を増やし、経験を積んで自信をもって伝えられるようにする。 ・例を示すなどして書き方を学び、作文する機会を増やす。 ・小テストを用いてアウトプットを継続的に行う。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
・単元の導入で生まれた疑問や興味を大切にして、主体的に学習に取り組む力 ・資料などを活用して詳しく調べ、その中で生まれた考えや疑問を基にさらに自分の考えを深める力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	○学習問題を基にして学習計画を立て、見通しをもって学習を進めることができる。 ○体験的な学習には意欲的であり、すすんで学習に取り組むことができる。 ◆資料を読み取ることが苦手である。 ◆必要な情報を調べ、まとめることが苦手である。 ◆都道府県の位置や、方位など、知識の定着が難しい。	・ICT 機器を活用して考えの共有を図り、児童の学びを深めたり、学習意欲を高めたりする。また、教科書や副読本を用いて、資料を活用する学習を行っていく。 ・学習問題を児童がまとめやすい形にしながら、自分の言葉でまとめを書かせる。 ・授業の導入において、地図記号クイズや都道府県ゲームを行い、定着を図る。
高	○授業においては、資料を丁寧に読み取り、そこからどのようなことがいえるかを考察することができる。 ○今まで学習したこと、他教科での学びを生かして思考することができる児童が増えている。 ◆歴史の流れ等は覚えているものの、知識として定着していない。	・予想の時間を大切にしながら、児童が意欲をもって資料を調べる活動を取り入れる。 ・まとめを自分で書く活動を行い、自ら学習内容を整理する時間をつくる。 ・発表する場を設定することで、自分の調べたり考えたりしたことをアウトプットすることで知識の定着を図る。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、生活や学習に活用しようとする力 ・筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えようとする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュ ラム	○具体物と具体物を対応させて数の大小を比べることができる。 ◆数字を正しく書くことができない。	・1～10までの数を、具体物から半具体物を通して、正しく唱えられるようにする。
低	○計算方法や問題の解法は身に付いている。 ◆演算決定の根拠を十分に説明できない児童が多い。 ◆数量的な感覚が養われていない。	・根拠の基となる図や表を用いて考えさせることで、理解を深められるようにしていく。 ・説明を例示したり模範を示したりしていくことで、説明する経験を重ねさせていく。 ・デジタル教科書を用いて、視覚的に分かりやすい工夫を取り入れたり、具体物を用いて感覚を養っていく。
中	○繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算、小数のたし算などの計算は、正しくできるようになってきた。 ◆算数用語（頂点・中心・半径・直径など）が定着していない。 ◆コンパスや分度器の操作が不十分で、作図などの操作活動が苦手である。 ◆自分の考えを言葉で表現して発表することが苦手である。 ◆文章問題の理解が難しく、立式を苦手とする児童が多い。	・教科書の補充問題やドリルを活用して計算の反復練習に取り組ませる。 ・チャレンジタイムや授業の中で繰り返し確認を行い定着を図る。 ・単元計画を工夫し、操作活動を積極的に入れていく。 ・積極的に算数用語を活用したり、児童の発言を言い換えたりして、算数用語の定着を図る。 ・文章問題を絵や図などに表すことで、数値の関係を捉えらるようにする。
高	○5年生…数の表し方、簡単な場合の割合、面積の正答率が高い。 ○6年生…約数を使う場面を選ぶこと、三角形の内角の和と外角の関係、比例に関する問題の正答率が高い。 ◆5年生…概数の表し方、角の大きさの読み取り、グラフの読み取りの正答率が低い。 ◆6年生…分数と小数のしくみや計算、ひし形の面積の正答率が低い。	・習熟度に応じた、問題設定や授業展開の工夫をする。 ・教科書、ドリルを活用して、計画的に基本的な学習の定着を図る。 ・教育ソフトを活用し、繰り返し解いたり、様々な問題に触れたりする機会を増やす。 ・ICT機器を活用して、読み取る力を高める。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
・身近なことから学習問題を見出し、見通しをもって主体的に学習に取り組む力 ・安全に観察・実験を行い、その結果を基にして結論を明確にする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	○観察や実験は、意欲的に取り組むことができる。 ◆予想したり、観察して気付いたりしたことを文章や絵で表現することが苦手である。	・既習事項を振り返ったり、予想や考察の際に視点を示したりすることで、自分の考えを言葉や絵などで表現できるようにする。 ・自分の言葉でまとめを書かせたり、学習内容と日常生活とのつながりを意識させたりすることで、学習内容の定着を図る。 ・よくできている児童の観察カードや観察方法を紹介していく。
高	○観察や実験は、予想を立てて考え、見通しをもって、意欲的に取り組んでいる。 ◆結果を基に考察を考えたり、自分の言葉でまとめたりすることに課題がある。	・自分の考えと友達の考えを比較しながら、共通点・相違点に注目させることで、まとめることができるようにする。 ・自分の言葉でまとめることを習慣付けることで、どのように書けばよいかを身に付けさせるようにする。

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
・具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かすことができる力		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	○観察したものへ素直な気付きがある。 ◆学校生活を支えている人々の存在に気付いていない。	・学校には、自分たちの生活を支えてくれている人々がいることに気付けるようにする。
低	○学習活動に意欲的に取り組んでいる。 ◆自分が育てているもの、探検した場所に興味・関心がとどまっている。	・ペアやグループ学習を取り入れる。異年齢との交流の場面を設定したり、友達と関わり合いながら学習したりする機会を増やす。 ・友達との関わりや植物の栽培を通して得た気付きを表現しやすくするために、「見付ける」「比べる」「例える」といった観点を示す。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
・自ら考え、友達と協働しながら、思いや意図をもって音楽活動を楽しむ力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○楽しく学習に取り組める。 ◆表現するために必要な技能が身に付いていない児童もいる。	・鑑賞や歌唱など曲との出会いの場面で曲の感じを出し合い、感じ方の多様性を感じられるようにする。また、リズム遊びなどの楽しみながら拍感を養うことのできる活動を取り入れる。
中	○すすんで学習に取り組める。 ◆表現するために必要な知識や技能が身に付いていない児童もいる。	・鑑賞や歌唱・器楽など、曲想と音楽の特徴を関連付けていく活動を取り入れる。また、旋律の動きや音の重なり気付かせ、音楽を構造的に感じ取れるようにし、どのように演奏したいか思いや意図をもたせる。
高	○主体的に学習に取り組める。 ◆表現するために必要な知識や技能が身に付いていない児童もいる。 ◆思いや意図をもつことができない児童もいる。	・幅広い楽曲に取り組ませ、音楽を形作っている要素と曲想や演奏の工夫に関わらせて鑑賞したり、どのように演奏したいか思いをもって表現したりする。

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
・何事にも興味・関心をもち、自ら学ぶ力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○楽しみながら、つくったり表したりできる。 ◆児童によって、発想や技能面での差が大きい。	・基本的な道具の使い方など、分かりやすく提示し、経験を重ねていけるようにする。 ・児童の実態に合わせた題材を設定し、低学年の児童でも、自然に発想できるようにする。
中	○すすんで活動に取り組むことができる。 ◆難しい道具の取り扱いなどで、児童によって技能に差がある。	・基本的な道具の使い方など、分かりやすく提示し、楽しくつくりながら、経験を重ねていけるようにする。
高	○主体的に学習に取り組んだり、自分の発想を広げたり、これまでの経験を生かして取り組んだりできる。 ◆表現するために必要な知識や技能が身に付いていない児童もいる。	・材料や道具の精選を行い、自分の思い付いたことに合わせて、表し方を試行錯誤したり、工夫したりできるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
・日常生活から、家族や家庭、衣食住、消費などについての体験を振り返り、よりよく生活しようとする力 ・家庭科の学習で実践した内容を友達と共有し、それらに関わる技能を身に付けようとする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	○日常の経験を基に、学習内容について意欲的に思考・対話したり体験したりしている。 ◆経験のない活動（調理や裁縫等）は、習得までの個人差が大きく、個別指導や支援を必要とする児童がいる。 ◆食に関しての興味関心が低い児童が多い。	・写真や動画等を活用して、事前指導を丁寧に行い、安全に取り組めるようにする。 ・支援員の先生や栄養士と連携をし、個別指導や支援が行える場面を増やす。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
・生涯にわたって運動に親しむ力 ・健康の保持・増進と体力の向上を図り、明るく楽しい生活を営む力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○運動をすすんで楽しむことができる。 ◆固定遊具を使った運動遊びを苦手とする児童が多い。	・よい見本を提示して、学び合いのある場を設定する。 ・補助具を活用したり、場を工夫したりすることで、段階的に体の使い方が身に付くようにする。
中	○意欲的、積極的に運動に取り組むことができる。 ◆投の運動を苦手とする児童が多い。 ◆鉄棒運動やマット運動などの器械運動を苦手とする児童が多い。	・理学療法士と連携し、ボールを投げる方法や捕る方法を学び、楽しみながら繰り返し行わせていく。 ・タブレットを活用し、練習方法を伝える。 ・活動カードを利用し、毎時間のめあてや振り返りを行うことで、次時への学習の見通しがもてるようにする。
高	○体を動かすことにとても意欲が高い。 ◆走の運動、器械運動などの技能面で個人差がある。 ◆体の動かし方を理解するまでに時間を要する児童も多い。	・動画教材を活用することにより、運動の特性や動きのポイントを理解できるようにする。 ・児童同士で教え合う時間を設ける。 ・ICT 機器を活用し、自分の動きを動画に撮影したり、友達の考えを共有したりすることで、自己の課題を見付ける機会とする。

10 外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国語等での育成したい資質・能力		
・話したり聞いたりする活動を通して、思いや考えを伝え合う力 ・外国語活動を通して、外国の文化について理解を深め、その多様性を尊重する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○外国語に親しんだり、外国の文化に興味や関心をもったりすることができる。 ◆挨拶などの基本的な外国語がなかなか覚えられていない。	・朝の会などで外国語で挨拶する等のクラスルームイングリッシュを取り入れることで、基本的な外国語を自然に話せるようにしていく。
中	○外国語に興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。 ◆学習した外国語を意欲的に話したり、聞き取ったりすることが苦手な児童が多い。 ◆ALT と自らコミュニケーションを図ろうとする児童とそうでない児童の差がある。	・ALT と連携し、簡単な挨拶などの交流活動を児童同士でも行えるように広げ、外国語に親しむことができる環境づくりをしていく。 ・ゲームやペア学習などの活動を多く取り入れることで言葉や表現を主体的に学び、活用できるような学習活動にする。
高	○すすんでコミュニケーションを取ろうとしている。 ◆発音練習をいい加減にしてしまう。 ◆細かい発音の聞き取りができていない。	・ゲーム性を取り入れ、楽しく発音練習を行っていく。 ・体験型の学習を増やし、すすんでコミュニケーションをとれるようにしていく。 ・口の動きから、発音の違いに気付かせる。

Ⅰ Ⅰ 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
・自分と違う考えがあることに気づき、共感したり受け入れたりする力 ・自分を振り返って考え、他者との関わりの中で、よりよく生きようとする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○教材に共感したり、問題意識をもったりすることができる。 ◆自分を振り返って考える経験が不足している。	・他者の経験や考えに数多く触れることが、自分の振り返りに生かされていくように、話し合い活動の形態を工夫する。
中	○登場人物の気持ちを考え、ワークシートに書くことができる。 ◆発言する児童が限られたり、発信するのみになってしまう、思考に深まりが出ない。 ◆ねらいとする価値から反応がずれてしまう。	・個人⇒ペア⇒グループ⇒全体の流れを意識し、児童が自分の考えを伝えたり、考えを深めたりしやすい授業構成にする。 ・ワークシートを活用し、友達の意見を聞いて考えたことを書く。 ・児童の発言に対し、教師は「他の人はどう思う？」と全体に広げる発問をする。 ・本時のめあてを明確にし、振り返りで自分の考えをもつことができるようにする。
高	○登場人物の気持ちを考え、発言したりワークシートに書いたりすることができる。 ◆道徳的価値を理解することができる児童が多いが、実践することができていない児童が多い。	・主発問の精選や資料の提示など、教材を工夫して児童が考えやすいようにする。 ・道徳の授業で学んだことを生かせるように、教科を横断した様々な場面で声かけを行い、実践できるようにする。

1.2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
・各教科等と関連をさせながら、探究課題の解決に向けて見通しをもって取り組む力		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	○課題に応じてどのように調べるかを考え、インターネットや学校図書館などの資料の活用方法を見出し、調べ学習を行うことができる。 ◆課題について理解し、調べることができる児童がいる一方で、検索キーワードやたくさんの情報の中からどの情報を選択すればよいか悩む児童がいる。	・SAGASOKKA や YAHOO キッズなど使いやすいサイトを学級で共有し、友達と協力して調べていくことができるようにする。 ・対話的・協働的に学習できるように、ペアやグループなど学習形態を工夫する。 ・ねらいを明確にして、児童が学習の見通しをもって活動できるようにする。
高	○自ら課題を見付け、解決のために意欲的に調べ学習を行っている。 ◆調べた内容を理解する読解力に差があり、その力が低い児童の意欲の低下が見られる。	・国語で学習した漢字の学習や文章を読む力が、総合的な学習の時間などの調べ学習にもつながることを意識させ、授業に取り組めるようにする。 ・どのようにまとめ、誰に向けて発表するのかなど目的意識をもてるようにする。

1.3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
・学校生活の充実と向上を自分事として捉え、諸問題について主体的に考えることができ、友達と協力して互いのよさや可能性を発揮しながらその解決を図ることができる力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○係活動では、友達やクラスのためになることを考え意欲的に取り組んでいる。 ◆集団での合意形成をしながら何かを作り上げる経験が少ない。	・教師側から問い掛け、問題提起する。 ・児童たちで話し合い、意思決定する経験を積ませていく。また、最初は話し合ったことをすぐに実行できる場を意図的に作る。
中	○係活動では、みんなのためになることを考え、意欲的に取り組んでいる。 ◆発言者の話を最後まで聞かなかったり、指名されていないにもかかわらず思ったことをすぐに声に出したりしてしまう。 ◆学級会での議案があまりなく、教師側から問いかけて行うことが多い。	・年度当初に学級会での話し合い方について確認し、計画的に進めていく。 ・児童同士で話し合いのよかったことを見付け合い、最後に共有する時間を設ける。 ・「議題ポスト」を設置し、司会グループとどのような話し合いを行っていくのかを事前に確認する。
高	○任された役割や仕事に、責任をもって取り組むことができている。 ◆委員会活動の当番もあり、係活動を行う時間がなかなか確保できない。 ◆学級会の進め方や発言に個人差がある。	・係活動や学級会が計画的に行えるよう、学級活動の時間の予定表を作成する。 ・学級会で出たよい発言や、司会グループの進め方などを掲示する。

Ⅰ 4 交流及び共同学習の進捗状況

特別支援教室での育成したい資質・能力		
・ 学校生活の基本となる学習態勢の確立 ・ 自分の気持ちや行動をコントロールする力 ・ 人とよりよく関わる力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	○新しい活動に楽しく取り組むことができる。 ◆出来事や自分の気持ちを説明するのが難しい。	・ コミュニケーションや運動、ゲーム性のある活動に取り組ませていく。 ・ 順を追って出来事を思い出したり、言葉による気持ちのやりとりのトレーニングを行ったりする。
中	◆児童によって語彙量の差がある。語彙の少ない児童は、自分の気持ちを表現するのが難しい。一方、語彙量が多くても、相手にうまく伝えられない児童もいる。 ◆気持ちの切り替えに時間がかかる。 ◆こだわりが強く、他の人の考えを受け入れられないことがある。	・ ソーシャルスキルトレーニングを通して、適切な表現方法を継続して指導していく。 ・ コミュニケーションや運動、ゲーム性のある活動に取り組ませながら気持ちをコントロールする力を高めたりこだわりを和らげたりしていく。 ・ 受け入れられたときに即時評価していく。
高	○下級生に優しい声かけができる。 ◆基本的な学習規律が十分に身に付いていない。 ◆言葉によるコミュニケーションがうまくできない。	・ 小集団では異学年によるペア活動を取り入れ、優しい声かけができたときにはどんな言葉かけがよかったのか取り上げて賞賛する。 ・ 自分でめあてを立て、行動の振り返りを通して自分を見つめる指導をしていく。 ・ コミュニケーションや運動、ゲーム性のある活動に取り組ませながら、人とのよりよい関わり方を実践的に学ばせていく。その際、できないこと、困っていることを言葉で伝える練習も行っていく。